

7-11

車椅子自操への取り組み

残存機能の維持・向上の為に

自立支援

個別ケア

特別養護老人ホーム 青梅園

発表者：生活相談員 中村 誠	共同研究者：介護職員 担当責任者 4 名
所在地：東京都青梅市黒沢 3 丁目 1867 番地 1	
TEL：0428-74-5181	E-mail：info@oumeen.or.jp
FAX：0428-74-5183	URL： http://www.oumeen.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	当施設は、昭和 57 年 9 月に定員 80 名にて開設され、平成 8 年には増築を行い、30 名の増床を行いました。現在は定員 110 名で運営されています。一年を通して四季を感じる事のできる自然に囲まれた福祉施設です。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉 一年間を通して上下肢筋力低下により、車椅子操作が困難な方を対象に筋力維持向上と生活をしていく上での行動範囲を拡大する事を目的とし、車椅子自操への取り組みを行った。 〈具体的な取り組み〉 対象利用者を選出するにあたり、身体および生活状況を踏まえ意思の疎通ができ、目的を達する事ができると思われる方を各フロアーごとに 1 名ずつ選出。当施設は 4 フロアーに分かれており、4 名の方を選出し取り組みを行った。 取り組みを行うに当たって、対象利用者の居室担当が責任者となり、その職員が不在の場合には他の職員が担当する事とした。 取り組み場所については日中の時間帯を利用し、おもに廊下にて行った。対象者に過度の負担が掛からないよう自操練習をする前には、身体状況の把握をすると共に手指等の屈伸を行い、日常生活の中で職員が対象利用者に声掛けをしながら進んで行えるように援助を行った。（対象者に応じて介助式車椅子から自操式車椅子に変更した）	〈活動の成果と評価〉 対象利用者 4 名は意思疎通について特に大きな問題はないが、本人の車椅子自操に対する意欲を上手く引き出す事ができず苦勞をした。 職員の声掛けにより徐々に本人の意欲が芽生え、自操する事ができるようになり少しずつではあるが自操距離を延ばしていく事ができた。 体調不良や精神的に不安定な時には、成果が認められない為、無理をして行わず回復を待って行った。 〈今後の課題〉 対象利用者の方はいずれも高年齢であり、ADL の低下等により良い成果をあげる事が厳しい状況であった。 この車椅子自操の取り組みについては決して大きな課題ではないが、利用者の方の生活レベル維持・向上の為に継続して取り組んでいきたい。
---	---

【メモ欄】